



楽しかった第16回伴奏講座

2019年6月22日(土)～23日(日)
星槎高尾キャンパス (星槎国際高等学校八王子学習センター)

定員20名に満たない場合は中止とふれての募集でしたが、ぎりぎり20名で無事実施することができました。(車で会場へ向かっている途中、車両が故障し動かなくなったと連絡があり1人来れなくなったので実質19名)参加者の皆さんお疲れさまでした。以下、有意義だった一拍二日の様子の一端を紹介します。

1日目・・・13:00、受付を済ませる。1拍2日の流れの説明の後、自己申告によるクラス分けが行われ、【初級コース(橋本講師)】に10名、【応用コース(池田講師)】に7名となり、それぞれの教室へ移動、講座開始。

講座の様子

【応用コース(池田講師)】の様子



2日目、席をまわり質問に答えアドバイスをする様子(写真左)、午後の発表に向けて弾き合っている様子。(写真右)

【初級コース(橋本講師)】の様子

1日目、2日目を通して、歌手手とのアンサンブルという意識を持つことを伝えたいということで資料にはアンサンブルの楽譜が用意されていました。実践の前に、色々な伴奏の形が出てくるアンサンブル用の楽譜を参考に、アルペジオやオブリガードの形を学びました。前奏の弾き方も実演され、パートごとに分かれての練習へと進みました。(写真は2日目のパートごとに分かれて練習の様子)



まとめと発表

【応用コース（池田講師）】の様子

応用コースでやってきたことをざっと話すと、伴奏ってどういうことが要求されているのかを大雑把に、大体はうたの伴奏だということを前提に話しました。

伴奏ってというのは、うたにくっついてるんじゃないかとお互いが違う仕事をしていること。そのためにどう弾かなくちゃいけないかっていう心構えみたいなことを話しました。では、伴奏する際に何が大切なのか。小学校、中学校で習った音楽の3要素の中で、伴奏講座で考えることは、歌い手がいるのでメロディーは弾かないことを前提に考えると、「リズム」と「和声」で応援してあげると伴奏になるのではないかということです。

「リズム」にもいろいろあって、三拍子でも1拍目、2拍目、3拍目のどこに強めの拍があるかで表現が変わるので、そういうことも含めて勉強していくと豊かな伴奏になるということで「リズム」の話をしました。

次に、更に実践的なことで「和声」の話をしました。まず、音階に「長音階」と「短音階」長音階は「ド」から始まって（ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ド）。短音階は「ラ」から始まって（ラ・シ・ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ）って言う2つの音階が

あること、それぞれに「主要3和音」と「副3和音」この6つの和音を中心に和音を付けていくことを話しました。実践的にはコードの付いていない「若者たち」の楽譜を使って、自分なりにコードを付けることをやりました。それで、2日目の午前中、コードの付いていない楽譜の中から各自曲を選んでその楽譜にコードを付けて伴奏の形まで作りましょう。ということだったのですが、時間がなくて伴奏までできた人は少なかったけども一人一人、この曲にこういうコードを付けてみましたっていうところを発表してもらいます。（講師のまとめより抜粋）ちなみに「遠くへ行きたい」「忘れな草をあなたに」琵琶湖周航の歌「希望」にコードを付けていました。

写真は発表の様子。メロディーを弾かない和音での伴奏をめざしたので講師がメロディーを弾いている。



【初級コース（橋本講師）】の様子

初級コースも同じように「伴奏とは」というところから入りました。辞書を見ると「曲の主旋律や主声部を支えて、それを引き立てるために他の楽器で補助的に演奏すること」そんなふう書いてありました。主旋律や主声部といっても難しいので、うた伴ということを考えて、メロディーを引き立てるためにアコーディオンで補助的

に演奏する。独奏はメロディーでもなんでも自分で演奏するんですけど、伴奏はメロディーは歌う人がやり、その他のことを伴奏が受け持つということで、複数でやる、つまりアンサンブルではなかるうかということをお話しました。

歌い手とのアンサンブルといっても、男声、女声、子ども、熟年、ソロ歌手、合唱

団、うたごえ喫茶と、いろんな歌手がいるというところで声の音域の話をして少ししました。実践の前に必要なことということでそんな話をしました。

いよいよアコーディオンですね。アコーディオンの左手のベースボタンを見て配列を確認しました。伴奏のために生まれたような楽器ではなかろうかと、それを大いに活用して伴奏に取り組んでみたいということで、左手だけでも出来ますよね。出来るけども、例えば「アルペジオ」だとかは左手では難しくどうしても単調になるので、右手の役割として、メロディー以外の役割をやってみようということで、例えば「二人は若い」でやってみました。これはあとで発表してもらいます。そんな風に右手を使わないと豊かな伴奏がでないというところへ入っていきました。

そこで、先ず「スリーコード」を覚えて使えるようにしようということでその転回形の話もしました。実践では「知床旅情」をスリーコードで転回形を使って弾いてみました。難しい課題かと思いましたが、これも後程発表いたします。

で、いよいよ現場に行ってみようということで大事なことを話しました。先ず前奏。前奏次第で歌手の気分が相当変わってくるので、伴奏者はここに命を掛けてくださいという話をしました。命をかけるといっても、歌手にこういうリズムで歌って欲

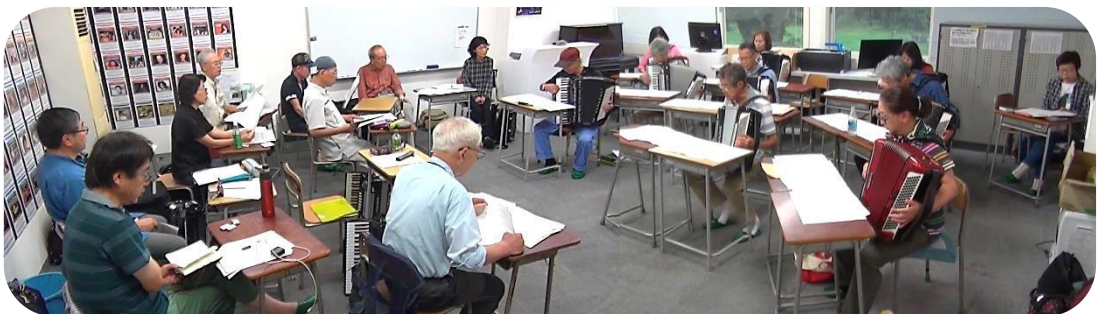
しいというメッセージを送ってほしいという話です。

そこから「リズム」の話をしてきました。4分の2拍子、4分の4拍子、4分の3拍子と8分の6拍子とその辺のお話をし、それから、いわゆる歌謡曲の中などでよく活用されている4ビート、8ビートの話をしました。4ビートの場合は2拍目と4拍目にわずかに強拍がある。4ビートの中には「夜明けの歌」のようにスローロックがあるし、例えばビートルズの「ヘイ・ジュード」、歌謡曲でいえば「酒と涙と男と女」とかね、そういう曲があるということで、その曲で感じていただくという話をしました。

また、前奏の終わりかたは、歌手に“どうぞ”ってしっかり伝えることが大事です。主役を歌手に渡した後の伴奏も、コードだけでは歌いずらいと思ったら“おかず”（オブリガード）を入れてみようということで「川の流れるように」の楽譜を見て、どこにオブリガードがあるか発見しながら進めました。他には対位旋律の話もしましたが、ちょっと難しかったと思います。（講師のまとめより抜粋）

発表曲は「二人は若い」「知床旅情」「川の流れるように」の3曲です。

写真は「川の流れるように」発表の様子。右側（初級コース）の人達が演奏し、左側応用コースの人達は歌手となり伴奏に合わせて歌いました。



参加者からひとこと (感想より抜粋)

自分でもコードだけの伴奏をやろうと
思ってたんですけど、なんか曲にならなくて、メロディーを弾くようになっていたんです。今回、池田さんからいろんなバリエーションがあることを教わり、そういう形があるんだと勉強になりました。

私には伴奏の才能がないのかなって思いますけれど、うたの伴奏をやりたいという気持ちは変わらないので、今回レジメでもらった主和音、下屬和音、屬和音の付いたスケールの練習ができれば来年も参加したい。

交流会楽しかったです。ちょこちょこボランティアで伴奏しているので、心構えとか形を教えていただいて役に立てばいいなと思っています。参加して良かったです。

伴奏講座のように、右手でメロディーを弾かない伴奏っていうイメージはなかったので苦労しているところがあります。また来年も参加したいと思います。

午後、コードを付ける練習で譜面でもらったんですけど、イメージが出てこない。鼻歌を歌いながら「おかず」なんかもちょこっと出てくるんだけど、指が鼻歌のように動かない。練習してみます。

私も、伴奏はメロディーをやればいいと思っていた。メロディーそのものもとても素晴らしいと思っているのでこれからも思っているんですけど、伴奏講座に2回参加して、伴奏の世界ってこれは面白いなって思いました。宿題をもらいましたが、家に帰って何をどうしたらいいかが見えてきた。とにかく続けることが大事かなと思いました。楽しい時間を過ごさせていただきました。

過去何回か参加して、コードの重要性は聴いているんですけど実際には練

習していなかった。今回スケールの表を2枚もらったので、これを繰り返しやれば何か出てくるんじゃないかと、それを期待して練習してみます。

アンサンブルの中でメロディーを弾くことが多かったので、左手が使えるようになったのはここ数年からで、その使い方も「ブンチャッチャ」と「ブン」と「チャッチャ」をやっていたんです。その「チャッチャ」を休みにするっていうのは大変なことだったんです。「チャッチャ」の部分を左手でやらずに右手でコードにして打つところが今日やってみたら結構出来るような気がする。あと、ベースランニングをやっていた。かっこいいですね。来年はそういうのも少し入れてみたいと思います。

伴奏講座に一番長く来ていると思うんですけどなかなかうまくなりません。今日は橋本さんのコースでベースパートでしたけど、今までの橋本さんの講座の中で一番難しい感じがした。

川の流れのように好きな歌なんですけど、必死についていきました。伴奏する機会はないけど、今日もらった楽譜を練習して、どこかで弾けたらいいかなと、そういう場を踏まないと弾けるようにならないんだろうと思うのでそういう機会を持ちたいと思っています。

始めての参加です。難しかった。3つの和音が並んでいるというところはわかったんですけど、これはなんだろうなって考えているうちに進んじやいましたけど、音を創り出すのは難しいけど楽しいなって思ったので、努力してみようと思います。

教えていただいたことを忘れないように、リズムで歌い手が歌いやすい伴奏ができるように練習していきたい。こういうところに来ないと出会えなかっただ

るう他のグループの共通の気持ちを持った人たちとの出会いが持てたのも良かったなと思います。

うたが好きではないので、歌伴したいとは思わないんですけども、お年寄りのところにボランティアで行ったときうたが一番手っ取り早く皆さんを浮き浮きさせるんですね。でも弾けないもんだから簡単なメロディーとブンチャッチャしかやっていないんですけど、この伴奏講座に来ていろんな話を聴くと、もうちょっとレベルアップしたいなと思うんです。

ボランティアに行って嬉しかったのは、90歳ぐらいの8、9人のご婦人方ばかりのところだったんですけど、アコーディオンを見るのもうれしいしアコーディオンの音を聴くのもうれしいって、ピアノの方がいらしてくれるんですけどアコーディオンが一番楽しいって言ってくれたんです。そう言ってくれるので間違っても笑顔でカバーしてやっているんです。少しずつでもレベルアップしていければと思っています。

私も数えてみたら8回目かなと思います。橋本先生の講義は実践的でイントロなんかもああんりたいなあと思いました。それと昨日の交流会で皆さんの個性的な演奏というか、あの人の演奏ねってわかるような演奏で触発されました。

アコーディオン教室は浅いのとボランティアもしていないのですが、楽譜はわかるので弾けるかなと思っていたら、伴奏の仕方って目からうるこで、橋本先生のイントロの歌いっぷりってすごいなあと勉強させていただきました。それと歌い手に渡すときの自分の姿勢っていうのか、すごく大事なんだなってわかりました。ボランティアをしているわけではないので、これで、伴奏をどこかでやるかっていうとやらないかもしれないんですけど、なんと

かその演奏を忘れないようにしたいと思っています。

4～5年ぶりの参加です。橋本さんのクラスは初めてでしたけど、実践的で良かったかなと思います。

アコーディオンは結構長いことやっているんですけど、なかなかうまくならない。今年は9月15日に行う関東アコの独奏に出ようと思っています。(拍手)その練習を始めたので伴奏の練習は止まっちゃう。だけど良く見るとソロの曲の中もここで勉強しているコードの配列になっていることに気が付きました。

私は宮城県で8～9人の名取アコーディオンサークル「Ne 風琴」に所属しています。うたごえの「青春」といううたがありますよね、あの作曲者「じぬし」さんという方が学習センターでアコーディオン教室をやっていたもんですから、そこでみんな習いました。うたごえ喫茶っていうとアコーディオンというイメージがあって、アコーディオンの需要があって下手でも声がかかるんです。仙台に2つあって両方ともピアノがいるし、クラリネットの元プロもいるし、うたもいる中で枯れ木も山の賑わいということでコードを押さえてやっています。

橋本講師・・・こういう立場になって4年目になります。今回も生徒の皆さんから、こういう要求があるんだ、こういうところで戸惑っているんだというヒントをいただきました。それがありがたくて、これからも研鑽を積んでいきたいと思っています。

アコーディオンで伴奏するのって、みんなと一緒にアンサンブルやるときにそれぞれの持ち分っていうか、そこから学んだことなんです。例えば介護施設に行くときに思うところがあるんです。80代後半か

ら90歳超えた方結構多くて、この方たちは私のつたない音楽を楽しみにしていらっしやる。もしかしたら今回で会えないのかなって、やっぱりそういう気持ちになるんですね。それも人と人との交わりで、本当に大事に時間を過ごしていきたい、そういうふうと思うようになったんですね。だから下手だとか、そういうふうには考えなくて、私は乱入って言いたくなるんですけど行って下さい。実践した人の音ってわかるようになりました。

19か二十歳ぐらいのときに18ベースの安いアコーディオンを買ったんです。何か伴奏できればいいなあと思って、で、「カチューシャ」を弾くと途中で、どうしようかと「Em」で弾くと「B7」などは無いんです。そこでごまかすんです。無いものをどう補うかという工夫からすごく和音を意識するようになって、こういう和声をやっていくきっかけになったかなと今は思います。

私にも癖があって、鍵盤をたたくとき「タタタタ」って、ピアノは鍵盤をたたく感じなんです。ただアコーディオンって、こう「ベタベタ」とどこかいつも触っている、触ってオクターブとかの感覚をつかむ。触っているとだんだんできてきます。和音もめったにやらないから難しくなるので、毎日触りながら分散和音とか転回コードをゲットしてください。

あと、伴奏するときにやっぱり左手のベロストップ。キレだとかリズム感が変わってくるのでベローも意識してチャレンジしていただきたいと思います。

池田講師・・・普通は楽譜を与えられて一生懸命練習する。難しい曲だとかなり練習しないと弾けないよね。伴奏って独奏でや

っている努力をどんなにやっても弾けるようにはならない。何故かっていうと、初級コースの人達は今日合奏やって和音弾かされたでしょ、相当大変でしょ。「C」というハ調の曲は単純に言うと主要3和音の3つの和音が出てくる可能性がある。それを和音で押さえられないと伴奏にならないんです。で、「C」っていう和音でも（ド・ミ・ソ）っていう和音と（ミ・ソ・ド）っていう和音と（ソ・ド・ミ）があるじゃないですか。だから「C」っていう和音の中に3つの組み合わせがあって、他の副三和音の3つも含めると6つの和音があって、それぞれの和音に3通りの組み合わせがあるから3×6で18通りの形を「C」の調だけで弾けないと伴奏にならない。だから伴奏するっていうのは、メロディーと伴奏が付いている楽譜を練習するのは努力の方向が全く違うことを理解しなくちゃいけない。

和音を弾く練習を日常的にやるといいよということで、スケールの表をみなさんの資料の中に入れました。渡したスケール表は2枚なのでやる気になれば5分で出来るので挑戦してください。

僕も最初一生懸命練習して、よし、これで弾けるだろうと、結構いろんなこと弾けるようになって、よしこれで伴奏できるなと思って現場にいったらもう2小節で全然弾けなくなっちゃった。要するにアンサンブルなんだけども、そういうお互いの関係の中で作っていくっていうのは大変難しいので、まずはその、伴奏用の楽譜をつくってそれを弾けるようにするっていうことと、それとうたと一緒にやる訓練をする。そうすると伴奏ができるようになる。

伴奏っていうのは、現場がなくて、そういうことを要求されてないとそこまでやるっていう気にもならないと思うので、

その辺でモチベーションを維持するのは大変なことなんだろうけども、もし、そういう現場を持っている人だったら、そのためにはそういう努力を是非してください。最初はすごく大変だけど、少し慣れてくると根音と一番上の音っていうのは完全5度で、根音からみて真ん中の3度が長3度か短3度かの違いだけで、長3度だとメジャーで、短3度だとマイナーです。こういう理屈だけなので、そのうちにわかっていきます。

最後に1つ、ピアノとかギターが入っているとリズムをやってくれるので、アコーディオンの音って割と横流れの音で支えられるんだけど、ピアノとかギターがないときにアコーディオンで伴奏する場合じゃあどうするのかっていうと、アコーディオンでリズムをやらなくちゃいけない。リズムをきちんと出してあげて意識しなくてはいけないということをおいてください。



楽しく有意義だった交流会

曲名の後は伴奏者名



「北国の春」 大岡さん



「ガンキノ・ホロ」
本田さん



「幸せを売る男」
田中さん



「若者たち」 小神さん



「おじいさんの古時計」
千藤さん (左) & 鈴木さん



「上を向いて歩こう」「見上げてごらん・・・」
橋本さん (pf) & 村井さん



「今日の日はさようなら」 満武さん (左) & 鈴木さん



会場の様子